



お年寄りの疑似体験グッズを使った学習を参観するみなさん(3年生:お年寄りに学ぼう)

6月24日、『人権・同和教育参観日』が開かれました。

人権・同和教育は、本校教育活動の大きな柱のひとつです。人々との出会いやふれあいを通じて、「人としての生き方」を学ぶとともに、身のまわりや暮らしの中にある部落差別や様々な人権に関する課題に気付き、そうした不合理や矛盾をなくそうとする意欲や態度を育てることを目指した取り組みを実践しているところです。

話が少し堅くなってしまうかもしれませんが、今回は、保護者や地域の方々だけでなく、名和町公民館「ことぶき学級」のみなさん50人をお迎えして、和やかな中にも真剣に学習に取り組む子どもたちの姿をご覧いただくこと

ができました。「ことぶき学級」の方々の感想をご紹介させていただきます。

『お年寄りに学ぶ』という3年生の勉強は、私たちが年寄りの不自由さや気持ちを勉強して、身近に感じたし、とても嬉しかった。

5・6年生になると、難しい内容なのに、子どもたちの真剣さが伝わってきて、とても感動しました。暑い中でしたが、庄内にやって来てよかったです。

1年生は、やっぱり可愛いですね。上手にひまわりの絵を描いていましたわ。

4年生の若松さんのお話には、胸と目頭が熱くなりました。5年生の命の勉強では、初めて知ったことがたくさんあったし、とても感動しました。

掲示してある作文が、とてもよく書いていました。ヒーマンのことやお手伝いのお話がもしろかった。

先生方の苦労がよく分かりました。いろいろ工夫がいろいろありました。

1年生・2年生

わがわが学級は「学級の中にある諸問題」について、3年生

は「高齢者の人権」、4年生は「障害者の人権」、5年生は「命の大切さ」

を、そして6年生は「人を人として大切に学習」を公開し、子どもたち一人ひとりが輝くオンリーワンの教育活動の一端を発信させていただきました。



子どもたちの学習を、微笑みをもって見守っていただきました(2年生・わかば学級合同の学習:7月行事予定表づくり)



掲示してあった作文にも目を通すことぶき学級のみなさん(参観者で混雑する5・6年生教室前の廊下)

# 森口健司先生を招いて 自分を語る学習づくり

## 名和小学校

6月3日、徳島県教育委員会生涯学習政策課・社会教育主事森口健司先生を招いて、6年生に「何でも語り合える仲間」の授業をおこなっていただきました。

森口健司先生は、道徳教育、人権・同和教育実践の第一人者であるばかりでなく、現在は社会教育主事として、熱い思いで教育活動を支援・指導もしておられる方です。

この授業は保護者や町内の方々にも開き、20人の参加者と本校の職員の参観する中で熱く公開されました。

子どもたちに育てたい自立性と社会性の元になる「自分の心を開き、自分を語ること」の大切さに気付かせることを狙った授業公開でした。

森口先生は授業の中で一貫して「昨日の自分より今の自分が好き」と言えるような素敵な自分になる。そのためには自分の心を開いて他の仲間をしっかりと受け止め、共に生きていく。そんな生き方こそ、すがすがしく美しいと言えないかと、温かい眼差しと大きく開いた腕とに



森口先生の温かい語りかけに、子どもたちはじっと聞き入っていました

象徴される共感的な心で、しっかりと訴えかけておられました。

この語りかけに、魔法にでもかかったかのように、子どもたちはほつりほつりと自分自身のことを語り始めていったのです。先生の心からのメッセージが子どもたちに通じるのを見た思いでした。

思春期の入り口に立ち、自分を鎖してしまいがちな6年生に、自分を語ることを、他者を受け入れることを通して、仲間と共に生きていくことの素晴らしさを語られる森口先生の言葉は、勇気の出る力のある言葉として、子どもたちの胸に響いた

ことでしょう。

子どもたちにはたった1時間の出会いでも、「人生を変える」そんな出会いであったことでしょう。子どもたちが自分の生き方を振り返って立ち止まる時、必ず先生との出会い、そして「昨日の自分より今日の自分が好き」という、この言葉をきくと思い出すことでしょう。



森口先生の言葉に心を動かされ、みんなが元気に手を挙げて話し始めました